会議録

会議名	第12回 文化振興推進委員会	
日時	平成26年 8月25日(月) 午後 3時00分～ 5時00分	
場所	学園都市センター第3・4セミナー室	
出席者氏名	委員	白澤宏規・伊藤淳子・新堀俊明・有賀万美・鈴木雅徳 西川柳時・前田満寿美・牧野彦市・宮崎珠子・飯塚栄子 五味洸栄子・寺山良子
	説明者	市民活動推進部長 大野哲宏 学園都市文化課長 小浦晴実・学園都市文化課 主査 南部かや
	事務局	学園都市文化課 主任 新井かおり・主事 田邊紀博
欠席者氏名	なし	
議題	1. 「文化振興計画」の平成25年度取組状況について 2. 「(仮称)文化芸術振興条例」について 3. 「(仮称)文化芸術振興計画の策定」について 4. 「文化振興推進委員会設置要綱」の改訂について 5. その他	
公開・非公開の別	「公開」	
非公開理由	-	
傍聴人の数	1人	
配付資料名	【事前配付資料】 資料1 平成25年度「文化振興計画」取組状況のまとめ 資料2 平成25年度重点項目一覧 参考資料 「文化振興計画」取組一覧 資料3 計画の検証体制 資料4 「文化振興推進評議会開催要項(案)」新旧対照表 【当日配付資料】 次第・席次表・委員名簿	
会議の内容	別紙のとおり	

(別紙)

事務局

8月1日から新たに2年の任期となり本委員会がスタートすることになる。新規の方3名含め、みなさまお忙しい中お引き受け頂き感謝申し上げます。本日は4つの案件とその他1件について意見をお伺いしたい。平成28年度からの新たな文化振興計画、これまでご議論いただいた(仮称)文化芸術振興条例についてもご報告させていただくので、活発な議論をお願いしたい。最後に今後とも本市の文化芸術振興により一層のご協力を賜りたい。

本日は全員ご出席いただいているので、本委員会は成立することを報告する。また、本委員会は原則公開となっており、本日の傍聴者は1名だが、傍聴を許可してよろしいか。

会長

了承。

事務局

それでは、ここからの進行は会長にお願いする。

会長

それでは議題に移る。まず、配布資料の確認を事務局からお願いしたい。

事務局

－資料確認－

【議題1】「文化振興計画」の平成25年度取組状況について

会長

それでは、議題1の「文化振興計画」の平成25年度取組状況について、事務局から説明をお願いする。

事務局

文化振興計画は平成18年から27年までの計画である。計画の趣旨としては、日常生活の中で、市民のみなさんが文化を感じられるまちづくりをするための具体的な取組をまとめたものである。この計画の1年ごとの進捗状況を確認し、本委員会にて評価をしていただく。

評価の方法についてであるが、A～Dの4段階評価である。また、3つの段階を踏み評価を行っている。

1. 計画に載せている取組の担当課による自己評価
2. 関係課の職員で構成している文化振興専門部会による評価(全ての取り組み)
3. 文化振興推進委員会による評価(委員のみなさんが抽出した重点項目のうち、C・D評価の取り組みのみ評価する)

評価の結果が資料1である。C評価が2件、D評価が1件となっている。平成25年度の取り組み状況については以上である。

会長

これらは昨年度実施してきた事業の評価である。ここでは本来は、D評価について

意見を伺うところではあるが、D評価の「文化振興条例の制定についての検討」については次の議題として独立してあるため、それを除く、資料2にある重点項目全体について意見をまとめたい。

まず、シート①の5「八王子の歴史資料・文化資源の共同研究と発表」についてどのような経緯で担当部署の評価から専門部会の評価が、B評価からA評価となったのか。

事務局

担当部署が厳しく自己評価する傾向があり、目的は達成できているものの更に努力する必要があると判断しB評価とした。それに対し専門部会としては、目標を達成できているかどうかで判断するべきであるとして、A評価が妥当ではないかという経緯である。

会長

次にシート③のNo.133「連携の可能性、あり方の検討」についてであるが、担当部署・専門部会ともにB評価となっているが、これについてはどのような経緯であるか。

事務局

大学コンソーシアム八王子において学生発表会を実施しているが、産業と連携させることを目標に取り組みを行ってきたが、実現に至っていない。また、大学との連携についても足りない部分がある。以上の経緯から共にB評価としている。

会長

産学連携の部分について、地元企業との連携ができないといった点が課題か。

事務局

仕掛けはしているものの、それが結果に結びついていない現状である。

委員

市政提案部門が34件から24件に減少しているのは、事務局としてどのような理由であると考えるか。

事務局

ゼミナール内での調整がうまくいかなかったことや、前年通らなかったことから今年は参加をやめるという声を聞く。

委員

働きかけが不足しているのか、働きかけはしているものの上手くいかないのか。

事務局

件数としては非常に多く100件以上の提案がある。昨年からはテーマを絞って行い、充実させようと考えている。件数は減っているが、中身が変わっている。

働きかけについては、大学への働きかけはもちろん、各種メディアの利用についても努めている。しかし学生に行き届くよう周知を行うのが難しいことについては課題である。

会長

市政提案部門は学生と市長とのふれあいトークの場があるのか。

事務局

市政提案部門については、応募があったものを、審査し、残った8大学の提案については市長の前でプレゼンテーションをし、賞を決める。また、全ての提案は市政に生かすため、各所管に照会し、実現可能性についてコメントを記入し、学生にフィードバックしている。

委員

応募件数は結果として増えているのか、減っているのか。

事務局

毎年テーマが変わることもあるため、件数に増減がある。

委員

学園都市づくりにおいて企業側の視点として、学生は毎年入れ替わる一方で企業側の担当者は変わっていない。そのため、その年度ごとでは盛り上がり、成功かもしれないが、全ての学生に周知できていないことや、八王子市内全ての企業が参加していないといったことから謙虚な理由でB評価しているのではないか。やるべき課題が常にあり、簡単にA評価とはなりにくい。そのため今後も事業を継続しながら、それらの課題を解決していくためにもB評価が妥当ではないか。

事務局

確かにゴールを設定しづらい部分がある。事業を実施したことへの評価や学生がどうフォローするかといった評価もある。このためトータルで見て評価していきたい。傾向としては、学生が発表し、それで終わりということがよくある。中には、その後も提案した事業について具体的に進めたいという学生もいる。そういったトータルの部分で評価したい。

会長

実質的には大学のゼミの参加である。このため増減するので難しい。大学の特定のゼミが参加しているということからも、このような事業に関わると、大学の教員の負担はどんどん増えていく。そしてボランティアとして行っている。それが大学の参加が増えない1つの要因なのではないか。大学側が仕組みづくりをすることも必要である。

委員

そういったことからこの事業の評価はBプラスが妥当なのではないか。

委員

了承

会長

このほか重点項目について取り上げるべき項目はあるか。

委員

郷土資料館について、市の広報に特別展の記事が載っていることから、来館者数はもっと増えてほしい。

会長

他に指摘事項がないようであれば、担当所管・専門部会での評価を踏まえ承認ということによろしいか。

委員一同

了承

【議題2】(仮称)文化芸術振興条例について

会長

議題1においてD評価であった文化芸術振興条例についてである。説明を事務局から。

事務局

まず経過の説明から。文化振興計画においては文化芸術振興条例の検討という項目がある。その中でこれまで議論を行ってきた。一昨年度は条例の中身まで検討し、文化振興推進委員会からも「八王子市文化振興条例」制定に関する提言書(以下、提言書)をいただいた。それを受け、事務局も庁内の意思決定機関である経営会議において条例の制定について諮り、進めてよいという答えをもらった。平成25年度については庁内での調整を行った。結果、なぜこのタイミングかという指摘も受けた。このような経緯から文化芸術振興条例の制定にむけた動きが止まっている。しかし、条例制定の話がなくなったわけではないので、引き続き進めていきたい。

報告は以上である。

会長

文化振興推進委員会の設置要綱における所掌事務に、文化振興条例の検討とある。また文化振興推進委員会としても時間をかけて条例についての意見をまとめてきた。この条例は文化振興計画の是非を問う時の基本理念となるものである。指標であり、判断基準である。また、市の果たす役割と市民が果たすべき役割を明確にするものである。これらの内容について委員会の名で提言書を出している。

様々な意見の人がいるが、具体的な意見としては文化振興計画が蓄積されている中で条例は必要なのかという声である。

これについて委員の方の意見を頂戴したい。

委員

これだけの規模の都市である八王子において、条例がないのは恥ずかしいのではないか。やはりバックボーンとなる条例があり、同時に実体があるというがよい。私自身、市民委員になったのは八王子が好きであり、八王子の文化振興についてもしっかりした条例をつくり、みんなの拠り所にしたいという想いがある。

委員

具体的な法律があるのに、憲法がないようなものであり、おかしいと思う。これが本委員会の総意であった。この状況は事態を見守るしかないのか。

事務局

やはりタイミングというものがある。一方で、市の計画として条例の検討を掲げている以上、それは今後も推し進めるべきだと考えている。平成28年度からの文化振興計画においても、しっかりとした位置づけの中で、さらに推進できる環境を作ることによって後押しをしていただければと思う。

会長

条例は市民の役割を明確にするためにも必要である。

事務局

おっしゃるとおりである。

委員

市民としてはオリンパスホールが完成したことで喜んでいる人が多い。その延長上に条例制定があるというのは、八王子は文化に力を入れているように捉えることができる。

事務局

この会議にいらっしゃる方達は八王子の文化に深く関わっており、文化に対する想いが強いのだと思う。一方でカサドコンクールのような国際的で素晴らしいコンクールであっても、数字的に見ると入場者がどんどん減っている。これも八王子の文化の事実である。

しかし、私たちとしては、この場でこれまでの意見が出てきたということ踏まえて責任をもって条例制定に取り組んでいきたい。

会長

八王子市の文化芸術振興条例はしっかりとしていると他から言われるような条例を策定できるようにお願いしたい。

委員

これまでの委員会で委員のみなさんで意見を出し合ってきた。平成24年度まではB評価で前進したとあるが、今年度は途端にD評価である。いろいろな方が意見を出してまとまったものである。なんとか進めてほしい。

委員

以前、事務局から他都市の条例の説明があった。他都市が条例を持っているのに、東京で最初の市である八王子がなぜ条例がないのかと思う。市民感情として思う。

委員

条例の位置づけとして、4月に中核市となるので、独自性のある条例を作っていたきたい。その中で今現在条例は市の中でどのような位置づけなのか。

事務局

中核市については、文化行政に関して権限の委譲が行われるようなことはない。しかし、中核市移行に伴って様々な付加価値を出していきたい。

会長

以上で次の議題へ進みたいと思う。

【議題3】「(仮称)文化芸術振興計画」の策定について

会長

まず、事務局より説明いただく。

事務局

平成27年度にて現在の文化芸術振興計画が終了し、平成28年度から新たな計画となる。文化振興計画の方向性については、幅広い施策に影響を与えうるので、計画は広範な施策に亘る内容となると思われる。狭義の文化芸術のみに計画の範囲を絞る

という考え方もあるが、現段階では広範な施策を対象としていきたい。詳細は、27年度の策定作業に入ってから、提示する予定であるが、事務局から案を提示し、皆さんからご意見をいただく方法になる予定である。スケジュールについては、平成27年度に5回程度の会議を開催し、庁内照会もしつつ、策定していく予定である。策定の組織については職員による組織の文化振興専門部会と文化振興推進委員会によって進めていく。

会長

これらについて何かあるか。

文化振興計画の取組みの費用対効果を計るために、全取り組みに要した経費を算出できるか。

委員

この資料の有無次第では、議論の内容が変わってくる。

事務局

検討する。

委員

これまで大人に対する文化振興の施策は様々あるが、子どもに対する施策は少ない。また、教育委員会も入っていない。今後、子どもに対する施策はどのように考えているか。

事務局

子どもに関する施策については「文化人を育てる」として小学校へのアウトリーチ活動を行っている。施策として子どもを外すという考えはない。

委員

子ども自身が活動する文化活動についても是非、検討して頂きたい。

事務局

学生のイベントの参加やボランティアについてもよく言われる機会であるが、学生も4年で卒業してしまうという点に非常に苦労している。八王子には様々埋もれているものがあるかもしれないが、それを繋ぎ止める仕組みづくりを行っていくことが必要ではないか。

会長

文化振興計画については平成27年度に事務局から素案が提出され、本委員会で意見を出す。その際に私から言いたいのは今までのフレームに拘束されず、見えやすい形で提示していただきたい。

【議題4】「文化振興推進委員会設置要綱」の改定について

会長

事務局から説明いただく

事務局

資料4を使用。要綱の改訂に至った背景として、要綱を根拠として設置するにふさわしくない組織があるとの指摘があり、本市でも全市的に見直しをした。その結果、以下の理由から要綱を根拠とする会とした。1つ目は事務局からの素案に対して、意

見を伺っているという点。2つ目は会議録の発言者を無記名で公表している点である。

更に要綱の改訂も必要であり、主な改訂内容については次のとおりである。

- ・「委員会」を使えないので、「評議会」とした。
  - ・委員のみなさんから、意見を伺う方式は変わらないが、提言・協議という言葉が使用できないので、「意見・助言を求める」とする。
  - ・27年度の文化振興計画策定にも携わっていただきたいので、範囲を拡大した表現にした。
  - ・「会長」「副会長」が使えないので、「座長」「副座長」とした。
  - ・次期の文化振興計画の最終年の37年度まで、本要綱は有効。
- 以上のような改訂案を提出したい。

会長

事務局の提案について何かあるか

委員

諮問という言葉であるが、新たな提案をしてはいけなくなるのか

事務局

いままで通り発言していただきたい。会議の場でいただいた意見については、事務局の方でしっかりと受け止める。

委員

第3条に参加者の記述があるが、これは現委員がそのまま就任することとなるのか。

事務局

そのようなことを想定している。

会長

提案に沿い、改訂させていただく。

【議題5】その他

事務局

本委員会の名簿をホームページ上で掲載することを報告する。

会長

本書のように掲載させていただく。

その他何かあるか。

会長

以上で散会とする。